

学 園 だ よ り

太 白 山

(平成30年8月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

「朝の挨拶」

副園長 鈴木 仁

学園の一日は、グラウンドでの朝会から始まります。その朝会の前に、学園独特の朝の挨拶の仕方があります。

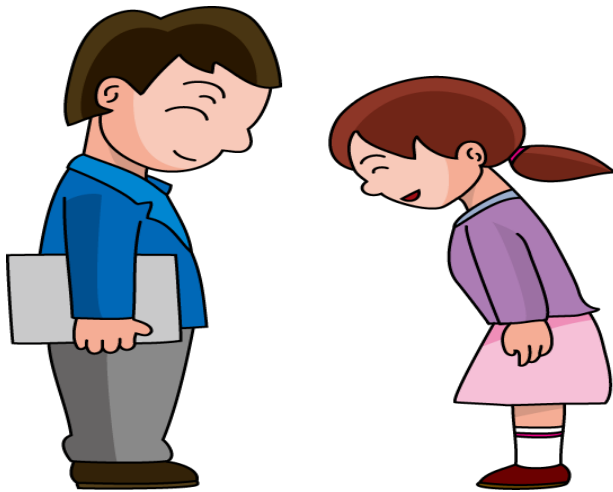
グラウンドに先生や児童たちが集まってきたら、先に着いていた人と向かい合って、一礼し、元気に「おはようございます」と挨拶をしていくのですが、一番最初にいた人（大抵は園長先生）と対面で挨拶したら、その隣に並び、次に来た人と対面で挨拶をします。後から来た人は、先生も児童も皆同じように先に並んでいる人に向かって一人ずつ横に移動しながら、挨拶をしていき、最後尾の人の隣に並びます。そうすると、一番最初の人から横に次々と人が並んでいき、最後には、長い列ができあがることとなります。

この挨拶の仕方には、最初は、ちよつと違和感を持つ人もいるようです。でも、この方法だと必ず全員が一人ずつ対面で挨拶をすることになるのです。いつも通りに元気に挨拶する子、今日は何となく元気がない子（後で聞いてみると朝に寮でちよつとしたトラブルがあったとか）、入

所当初は伏し目がちに挨拶をしていた子が、徐々に元気に相手の目を見てしつかり挨拶が出来るようになってくる様子など、子どもたち一人ひとりの様子も確認できます。

この学園独特の挨拶方法ですが、とても良い習慣だと思っています。

「挨拶、返事は基本の基」。学園で日頃から子どもたちに指導していることですが、まさにそれを実践する場だと感じています。



「中総体（バドミントン）」

バドミントン部 池田 千郷

6月10日、仙台市青葉体育館で中総体が行われました。今年度は女子寮から二名の児童がバドミントン競技に出場しました。

二人とも学園入所後に始めたバドミントンですが、当初は中総体への出場を見合わせようと考えたこともありません。しかし、練習を重ねるにつれ、出来なかったことが出来るようになったのはもちろんのこと、助言を受け入れる素直さと、指示されたことに取り組んでみよう、やってみようというチャレンジ精神が、二人を成長させてくれました。そのひたむきさと頑張る姿勢が、なによりも嬉しかったことを今でも覚えています。残念ながら、勝利という結果は得られませんでした。が、勝利よりも大切な何か、二人の心に残っていれば…と思います。

日頃より、学園のバドミントン活動へのご理解、ご協力、ありがとうございました。また、中総体当日はお忙しい中、雨の降りしきる足下の悪い中ではありましたが、保護者の方々を始め、応援に来てくださった関係者の皆様、この場をお借りして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

中総体に参加して

すみれ寮 R

私は、中総体に参加して、本当の対戦相手は目の前のコートに立っている人ではなく、同じコートに立っている自分自身なのだ、ということに気づかされました。どれだけ点差があっても、文句をぐちぐち言いながらでしか、最後まで投げ出すことなく一生懸命試合をした自分に、変ですが感動しています。

中総体で学んだこと

すみれ寮 M

私は今回の中総体でたくさんの方とを学びました。試合で負けることの悔しさ、応援してくれる人がいることのありがたさだけでなく、技術的なことも学びました。ですが、負けたことには変わりはないし悔しい気持ちもたくさんあります。なので、この悔しさをバネに、次は悔いのない試合をしたいです。

二人とも、とても良い作文だったので、どちらか一人を選んで載せることが出来ませんでした。それぞれの作文から抜粋させていただいたことを「了承ください。」(池田)

「野球地区大会」

野球部監督 佐々木誠二

今年度の野球部では全力プレーやチームワークを心がけるため、「One for All、All for One」をテーマに掲げ活動しています。野球部員は当時7名で正式に参加出来る最低人数で第69回全日本少年野球東北・北海道地区岩手大会に出場しました。

6月27日から29日まで開催された地区大会の初戦は大沼学園(北海道)で1-14、三位決定戦の子ども自立センターみらい(青森)戦は4-14で敗れました。

たしかに、試合には敗れましたが、子どもたちの一球一球を大切にしながらチームメイトを励まし一生懸命試合に臨む姿勢や宿舍での態度は他県の施設職員からも評価されており、子どもたちの成長を強く感じた地区大会でした。また、監督としてチームを率いていて、とても楽しいチームでした。

今年度、野球経験のない職員が監督、コーチを務めることが出来ているのも、子どもたちのひたむきな姿勢のおかげです。子どもたちの頑張りをねぎらいつつ、子どもたちに感謝を伝えたいです。「ありがとう!!」。

「野球大会に参加して」

青葉寮 S

私は今回の地区大会で主将という役割をさせて頂きました。一日目の選手交歓会でチーム紹介では、頭が真っ白になってしまいました。きちんと自信を持ってしゃべることができました。

ついに試合が始まりました。一回の守りは調子が良く出来ました。二回からは段々崩れて、結果負けてしまいました。ですが、仲間が最後にタツチアッパで一点決めてくれたのが、とても嬉しかったです。試合で負けてしまったのは悔しくて涙が止まりませんでした。ですが、たくさんの人に褒められて、それは声を出し続けて最後まで諦めなかったからだと思います。最後まで腐らず頑張れたのは、自分たちのためにたくさんの方が応援してくれたからです。本当に嬉しく、何度もくじけそうになったけど、下をむかずに頑張れました。

三日目の試合も負けてしまいましたが、前の日より内容良くできました。

私が大会で大事にしたかったのは技術面では無く、気持ちを大切にすることができたので目標は達成できました。

の経験を生活に活かしていきたいです。

（野球大会・バドミントン写真）



学園心理士 田丸 陽一

最近、自分の気持ちをコントロールすることが難しく困っている子どもと面接するときによく扱うテーマがあります。それは「リラクゼーション」です。リラクゼーションとは、自分で心や身体をリラクセスさせることを意味します。学園に入所してくる子ども達の中には、自分で自分を落ち着かせることが苦手だったり、そもそもリラクセスした状態が感覚的によく分からない子もいたりします。リラクゼーションは練習することではじめて実生活で使えるようになるため、心理士からの子ども達に「宿題」として出しています(取り組んでくれるか否かは別の話ですが笑)。今年度の新たな試みとして、子どもと職員が一緒にリラクゼーションを体験する研修会を開催します。人なら誰しも感情的になってしまう場面があります。その危ない場面で、一呼吸置き、落ち着きを取り戻す練習を子どもと大人と一緒にできればいいなと思っています。



実行委員長 木浪 琢磨

8月の1日・2日で、毎年恒例の野外活動として、花山青少年自然の家へ行って参りました。今回の野外活動は、男子9名、女子3名での参加でした。

初日。まずは、13時からプロジェクトアドベンチャーをしました。プロジェクトアドベンチャーでは、みんなが協力しながら、個人の成長と人間関係作りを目指して、課題をこなしていきます。最後は、高い垂直な壁を、みんなの力で上るというものでした。チームごとに知恵を絞ったり、持ち上げた上から引っ張ったりしながら課題をクリアしました。助け合うという気持ちがいっそう強くなったように感じました。

夜は、ナイトハイキングをしました。チームに分かれて、夜の山を登りました。途中、休憩ポイントでは、ブルーシートを引いて、その上に寝転がりながら、夜の虫や鳥の音、山の空気を感じる事ができました。

二日目。最終日は、9時から沢登りをしました。沢までは、30分ほど歩かなければいけないため、とても暑い中ではありましたが、みんな、頑張っ

て歩いていました。沢に到着してから

は、みんな気持ちよさそうにしています。途中、飛び込みができる場所があり、大きな滝や小さな滝など、自分にあつた大きさの滝で、楽しそうに飛び込んでいました。また、沢登りの途中には、上るのが大変な場所が何カ所もありましたが、助け合いながら上ることができていました。前日のプロジェクトアドベンチャーで勉強した、協力と助け合いがとても良く見られたと思えました。

今回、1泊2日と短い期間ではありましたが、とても良い経験ができ、心が大きく成長したように思えます。また、良かった点として、今年も事故無し、ケガ無しでできたことだと思えます。今後も、野外活動で経験したこと、勉強したことを生かして生活して欲しいと思います。

「野外活動に参加してみたの感想」

青葉寮 Y

私は、8月1日水曜日から8月2日木曜日までの2日間、国立花山青少年自然の家で、野外での活動をしてきました。8月1日水曜日9時にさわらび学園を出発して、12時に国立花山青少年自然の家に着きました。到着したあと、昼食をとり、プロジェクトアド

ベンチャーをしました。プロジェクトアドベンチャーでは、冒険の森に行き、つるしてあるロープを上ってみたり、綱渡りをしてみたり、急な壁を班のみんなと協力して登ってみたり、巨大なシーソーに乗って、班のみんなと協力して、傾かないようにまっすぐにしてみたりと、大自然の中でいっぱい遊んできました。夜は、ナイトハイキングをしました。ナイトハイキングでは、2つのグループに分かれ、夜のほおのきの道をライトで照らしながら歩き、大自然を見て癒やされました。そして、大浴場に入り、体の疲れをとり、無事に一日目が終わりました。

2日目は、みんなが楽しみにしていた沢活動をしてきました。沢活動では、泳いだり、高い所から飛び込んだり、きれいな石を見つかったりと、とても楽しかったです。高い所から飛び込むとき、最初少しこわかったけど、飛び込んでしまうと、すごく楽しくて2回やりました。大自然の音や景色を見たり聞いたりして、いっぱい大自然とふれあってきました。

少し苦手なことでも挑戦して、最後までみんなと助け合い、協力して、ケガをせず、国立花山青少年自然の家での楽しい野外活動となりました。



「青葉寮長より」

青葉寮長 菅原 匡

現在の青葉寮の構成メンバーは、高校1年児童1名、中3児童1名、中2児童4名と、職員6名となっています。4月の職員異動、児童の退所等で人間関係の構図に変化があり、安定感が欠いた時期もありましたが、児童、職員でスローガンや重点目標を話し合い、「自立と自律の力が高まる青葉寮、人の気持ちを考えよう」を掲げました。

また、今年度から週の個人目標を設定し、短期間で自己評価する形を取り分かりやすく達成しやすい目標にすることで達成感や自己肯定感を高めたいと考えています。

話し合いの中では、相手を思いやる行動、時間を見て自分たちで行動しよう等と建設的な意見が多く出ており、野球活動や作業活動を通じて互いをカバーする行動や、節度を持って行動する意識には好感が持てます。反面、目標達成に向けた持続力が弱く底上げが必要な状況です。

個性的で愉快的な仲間達。光る物を持っているメンバーです。これからの児童相談所、原籍校、保護者の皆さんの温かい見守りと励ましをよろしくお願いたします。

「プール開き・竣工式」

体育担当 夏谷 朔

7月19日、さわらび学園ではプール改修工事竣工式が、プール開きと合わせて行われました。老朽化が進んでいた学園のプールは、今年度に改修工事が実施されて、真新しいプールサイドが完成しています。プールが新しく改修されるまで、学園内外で多くの人に協力して頂いたことから、感謝の気持ちを込めたプール開きです。

当日は、児童と職員の他に子ども・家庭支援課長や小学校長、中学校長に来賓として参加して頂きました。少ない人数でピカピカに磨いたプールの前に、テープカット、児童の模範水泳や誓いの言葉など、立派なプール開きを全員で作れたと感じています。

学園のスポーツ活動は、男子は野球、女子はバトミントンを中心に活動しているため、他競技に集中的に取り組む機会は少ないです。そのため夏のプール活動は、新鮮な気持ちで楽しめる貴重な機会です。プールが好きな児童、泳ぐのが苦手な児童と、プール活動に臨む気持ちは様々ですが、今夏は新しいプールを、全力で安全に楽しめるように活用していくスタートを切れました。



編集後記

全国的に猛暑が続いています。さわらび学園の夏も相当暑いです。子ども達は元気がいっぱいです。みなさまのご支援を頂きながら、この暑い(熱い?)夏を乗り越えていけるよう、児童、職員ともども頑張っていきたいと思えます!

